

東京都標準様式の活用について

各パス事務局	現在の状況について
東京東部脳卒中連携協議会	連携を結んでいる医療機関は、東京都以外にも千葉・埼玉・神奈川・山梨と、非常に広域にわたっており、色々な立場からの意見がでている。平成23年11月の全体会において、東京都標準様式の活用についての方向性を検討する予定である。
Metropolitan Stroke Network 研究会	東京都標準様式を活用していく予定である。事務局の一般社団法人化を計画しており、どのタイミングで様式の切替を行うかを相談しているところである。
区西南部脳卒中医療連携検討会	平成23年3月にパス様式を作成し、運用を開始したところである。まずは地域内での運用実績をつんでから、様式の切替について検討していきたい。
区西北部脳卒中医療連携検討会	平成23年10月1日より、東京都標準様式の使用を開始した。
足立区脳卒中ネットワーク	現在のパス様式自体は2年前に作成したばかりで、まだ浸透率も低く、東京都標準様式を活用していくのはまだ難しいと思う。
区東部脳卒中パス	東京都標準様式への活用については、年内もしくは年度内の切替に向けて準備中である。
西多摩地域脳卒中医療連携検討会	診療報酬の算定にかかわらず、情報の共有化や切れ目のない連携を図ってきたが、パス自体の普及がまだ十分でない状況だと思う。患者説明用パスについては、導入可能だと思うが、まだ時間が必要である。
南多摩脳卒中医療連携協議会	平成21年度に立ち上げたばかりなので、まだ地域内での運用実績が十分ではない。東京都標準様式の活用についての検討は行ったが、現状では導入する予定はない。
北多摩脳卒中連携パス協議会	東京都標準様式のうち、患者説明用パスは活用しており、今のところは順調である。
北多摩南部脳卒中ネットワーク	北多摩南部のパス様式は今のところ順調に活用されているので、東京都標準様式の活用についての検討は行っていくが、当面は現在の様式を使用する。
北多摩北部脳卒中医療連携	東京都標準様式のうち、患者説明用パスについては活用していきたい。東京都標準様式の活用についての検討は行っていくが、当面は現在の様式を使用する。